

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX : 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻頭言

地方会長に選出されて

大同特殊鋼(株) 統括産業医 齊藤 政彦



2020年の役員選挙によって地方会長に再選されました。今回で三期目となります。

さて昨今、労働者を取り巻く環境が大きく変貌しています。

2019年の働き方改革関連法の施行によって、残業時間の上限や最少有給休暇取得日数が義務化されました。それにも増して強い影響を受けたのが、2020年の新型コロナウイルスのパンデミックです。緊急事態宣言の発出によって社会活動が大きく制限される中、職場でも人との接触を避けるために、テレワークが広まり、会議や研修などのオンライン化が進みました。今後もこの流れは続くと思われま

す。学会活動も新型コロナウイルスの影響を強く受けました。会場に集まって対面で行うのが当たり前だった学会が、ネットを活用したオンライン開催が主流となりました。遠隔地からの参加が容易という便利な反面、直接触れあうことができず反応が得られにくく親睦が図り辛いというデメリットがあります。産業保健スタッフは少人数で活動していることが多いので、孤立化が懸念されます。今後はハイブリッド開催、すなわち、会場での対面とオンラインでの参加を混合した形のもので予定されています。

労働環境の変化は、産業保健スタッフの業務にも大きな影響をもたらすと予測されます。テレワークやワ

ークーションなど働き方が多様化することで、より個別性を重視した支援が求められるでしょう。またメンタルヘルスを含めた健康障害も新たな課題が生じると予想されます。これらの変化によってもたらされた問題点を整理して適切な支援方法を示して、労働者の健康増進に貢献していくことが学会の役割と考えます。現状、会員同士が直接会って議論することは難しいですが、ICT技術を上手く活用して協力し合いながら取り組んでいけたらと思います。困難な状況だからこそ相互のコミュニケーションが重要と考えます。今後ともよろしく申し上げます。



開催報告

2020年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催報告

企画運営委員会：CKD 久永直見、名古屋市大 酒井 潔、愛知教育大 榊原洋子

2020年度の地方会学会(11月14日)は、新型コロナウイルス流行のため、愛知教育大での開催を取り止め、Web開催となりました。ITに詳しくない企画運営委員でしたが、115人の参加で、大過なくできたのは、地方会事務局、発表者をはじめ皆様のご協力の賜物で、厚くお礼申し上げます。

1. 企画の柱

本地方会学会では企画の柱を3本立てました。

第一は、一般演題発表の充実です。そのため、講演集(図1)を地方会ホームページに事前公開し、予め読めるようにしました。第二は、今後の研究発展につながる特別企画です。過去14年の企画を分析し、今回は、様々な研究・実践に共通して重要な取り組み方を取り上げることになりました。そして、これを学会テーマ「発想を拡げ、協力して産業衛生研究・実践を進めよう」に掲げ、特別講演2題と調査・研究の企画提案からなるシンポジウムを組みました。第三は、東海地方の産業衛生の歴史を振り返る写真展の実施です。地方会創立百周年(2036年)に向けた資料収集活動に弾みがつけばと考えました。



図1. 2020年度東海地方会学会講演集
(表紙デザイン：榊原遼子)

2. 一般演題

2会場で18題の発表がありました。内容は、心拍変動、ストレス、メンタルヘルス、新型コロナウイルス感染症、食生活改善、糖尿病、脂肪肝、乾皮症、有機溶剤、殺虫剤、クロム、3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン、腰痛、低周波音、健診のがん項目二次検査、産業看護職のネットワークと多彩でした。いずれも現実の課題の解決に向けたものであり、東海地方会員のそれぞれが抱える課題への取り組みに役立つと考えられました。

3. シンポジウム：発想を拡げ、協力を進めよう

シンポの前半は、2題の特別講演です。講演1は、名古屋市の上島通浩先生による「疫学研究にみる女性労働と妊娠・出産」です。環境省の「子どもの環境と健康に関する全国調査」にて夜勤者の切迫流産リスクが労働時間とともに高まる結果を得たことなど、内外の研究が紹介され、働き方に内在するリスクへの私たちの向き合い方が問われるとの指摘がありました。講演2は、獨協医大の木村真三先生による「実践的放射線教育にみる児童の理解と行動～福島県二本松市の事例」です。チェルノブイリや福島での研究から教育の重要性を認識し、小中学校教員と放射線学習の副読本を作ったこと、出前授業の内容を子が親に話し、市の内部被ばく検査への親の姿勢が変わったなどの成果が紹介されました。

シンポの後半は、地方会の複数の部会に属する有志が協力する調査・研究の企画提案の募集に応じた4題の提案と討論です。テーマは、セルフケアのための食事チェック票(浜松医大・中村美詠子先生)、新型コロナ対応における情報源調査(ヤマハ・山本誠先生)、職場での騒音曝露と内耳機能(名大・大神信孝先生)、新型コロナ対策も踏まえた熱中症予防(愛知医大・成定明彦先生)です。現場から研究室まで、問題意識を共有する有志の協力が、単独では得がたい成果を産むことが期待されます。

4. 東海地方の産業衛生を振り返る写真展

昼休憩に、ナレーション付きスライドショーを実施しました。写真・資料提供者は、中村蓼吾、竹内康浩、加藤保夫、井奈波良一、柴田英治の諸先生方と企画運営委員3名です。ここでは、明治以来の展示資料からトピックスを3つ紹介します。

(1) 東海4県初の労働安全衛生関連規則：1899(明治

32) 年に愛知県令「工場に於ける負傷者及病者届出規則」が出ています。調べた範囲では、これが最初です。翌年には 愛知県令「工場及寄宿舎取締規則」が出ました。これには、20 人以上の職工・徒弟を使用する工場主は、工場医を置き、月 2 回以上健康診断との定めもありました。

(2) 全国初の県工場衛生会の設立：1916 (大正 5) 年の工場法施行の翌年 1 月 15 日に、愛知県庁に工場医 34 人が参集し工場医会発起人会が開かれました。しかし、直後に県は工場主会と合わせた愛知県工場衛生会の創設に方針変更。同会は、2 月 5 日、知事、警察部長、工場主、工場医など 500 余名の出席で発足しました (図 2)。同会が、①工場衛生雑誌発行、②工場衛生展覧会、③講演会・演劇、④工場設備改善方法の研究、⑤工場医務の統一を計画したことは、従来から知られていましたが、実行状況は不明でした。しかし、最近の調査により、④を除くと実施を裏付ける資料が見つかります。たとえば、工場衛生展覧会は、第 1 回が 1921

年に、児童衛生博覧会、花柳病予防展覧会と併せて愛知県商品陳列所で開かれ、40 余万人来場と報道され、記念写真帖も出ています (図 3)。

(3) 蚊とハエの撲滅運動：今回の写真展に向け集めた資料の中に、1951~57 年の名古屋市における殺虫剤散布の写真がありました。うち 1 枚は市街地への BHC 空中散布の準備風景 (図 4) でした。BHC は発がん性異性体を含み、1971 年に使用禁止とされています。当時の BHC の石綿含有も最近判明しています (榊原ら、2018)。今になってみるとたいへん貴重な写真といえるでしょう。

今回の写真展は、資料収集の初期段階での不十分なものです。資料の保全と活用への皆様のご協力をお願いします。

以上が 2020 年度地方会学会開催報告ですが、ポストコロナの新時代に向けて地方会の学術活動のますますの発展を期待します。

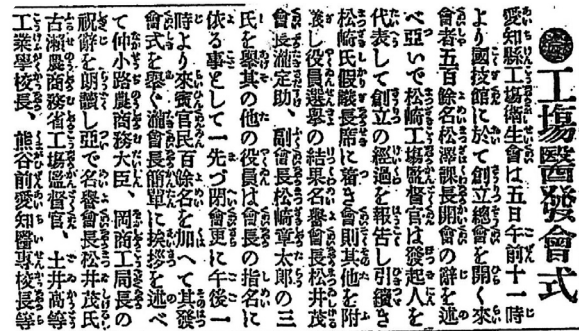


図 2. 愛知県工場衛生会創立の新聞報道 (名古屋新聞、1917 年 2 月 6 日)



図 3. 第 1 回工場衛生展覧会記念写真帖の表紙と米国の災害予防ポスターの展示 (1921 年)



図 4. BHC 粉剤のヘリコプターによる空中散布の準備 (名古屋市、1957 年)

2020年度東海産業衛生技術部会特別企画に参加して

名古屋市衛生研究所 研究員 若山 貴成



2020年12月19日に、WEB会議ツールZoomを利用してオンラインで開催されました東海地方会技術部会の特別企画「100年に一度のパンデミック感染症と向き合い、after コロナを考える研修会」に参加しましたので報告させていただきます。コロナ禍でのオンライン開催ということもありましたが、50名ほどの聴講者がいらっしゃいました。

基調講演では、労働安全衛生総合研究所の吉川徹先生に「新型コロナウイルス感染症の感染対策に必要な呼吸器保護」と題して、マスクに関する基礎知識から専門的な知見までお話しいただきました。恥ずかしながら、N95は米国労働安全衛生研究所(NIOSH)が定めた規格であり、DS2は日本の厚生労働省が定めた規格であることを初めて知りました。さらに、N95とはあくまでもフィルター性能の規格を指しており、感染を広げないためにはフィット性能が重要であるとお話を伺い、確かにその通りだと非常に勉強になりました。

マスクをすることが当然の世の中になっていますが、フィッティングを意識してマスクをする習慣が今後はより求められるのではないかと強く感じました。

教育講演では、スリーエムジャパンイノベーション株式会社の榮留富美子先生に「院内感染ゼロへの道～

訓練と基本の徹底」というテーマで講演していただきました。自衛隊中央病院における院内感染ゼロを続けるための取り組みや自衛隊の新型コロナへの対応についてお話を伺うことができました。院内感染ゼロを続けるためには、普段からの教育訓練が非常に重要であるという内容でした。例えば、外部委託している清掃担当の方々も含めて手指衛生の徹底を行うなど、医療従事者のみではなく病院全職員に広げて行わなければならないと仰っていました。コロナ対策に限らず、針刺し事故などに関する教育訓練なども日常的に実施しているとのことで、日頃から基本を守り、教育訓練を行うことが重要であると認識できました。

最後に、中部大学の那須民江先生から指定発言を頂きました。歴史を振り返り、人類はハンセン病、ペスト、梅毒、結核、スペイン風邪といくつもの感染症を経験しているので、歴史を学びながら新しい道を切り開く(温故創新)が大事なのではないかとお言葉でした。一人一人が感染症を意識して3密を避け、手洗い・うがい・マスク着用の基本的な予防策を実施することが重要であることが改めて感じられました。

最後に、総括的な意見として、呼吸用保護具のフィットテストの基準が必要ではないかとの意見や、産業衛生学会が提供している換気シミュレーターを一般社会に広く認知してもらうべきだとの意見などが示されました。オンライン開催ではありましたが、貴重なお話を伺うことができ、勉強させていただきました。



第 33 回 産業保健スタッフのための研修会を終えて

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師 松浦清恵



2020年度の産業保健スタッフのための研修会を、高畑企画委員長（JR東海）の下で研修企画委員の先生方（渡井先生、成定先生、青山先生、菅沼先生、松浦）とともに2021年1月30日（土）に開催致しました。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言下であったことより、初めてオンライン形式「Zoom」で開催しました。テーマは、『地域・職域連携』とし、「これからの地域・職域連携推進の在り方に関する検討会」座長でもある女子栄養大学 特任教授 津下一代先生に「産業保健と地域との連携～働き方の変化、健康課題の変化に対応するために～」と題して、ご講演を頂きました。

津下先生からは、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、テレワークなどの働き方が大きく変化し、働く人の健康意識にも変化がみられることや、2019年9月に改訂された「地域・職域連携推進ガイドライン」について、具体的にご説明を頂きました。また、職域保健と地域保健が連携を強化することにより、企業の退職者が退職後も継続的に健康づくりを行うことができることや、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止も効果的に実施できることなどの多くのメリットがあることを教えて頂きました。

ご講演終了後の質問時間では、オンラインでしたが、

職域、地域の両方の立場の参加者からご質問を頂き、お互いに連携強化が必要と感じているものの、どのように連携したらよいかわからなかったなどの意見交換ができ、さらに学びを深めることができました。

今回は、初めてのオンラインでの研修会でしたが、参加者アンケートの結果から、「研修会の満足度」は、94%が「満足」と回答頂きました。

尚、参加者の職種は、保健師71%、医師9%、看護師7%、所属は、企業57.4%、教育機関14.8%の順に多く、地方自治体・保健所などからも3名（4.9%）の方にご参加頂くなど、多くの方（74名）にご参加頂き、大変有意義な研修会となりました。この場をお借りして、ご参加頂きました皆様に心より御礼申し上げます。

また、参加者から、地域職域連携で特に重要だと感じていることは、「生活習慣病対策」や「治療と仕事の両立支援」、「新型コロナウイルス感染症」などの回答があり、今回の研修会が今後の連携強化のきっかけづくりになったのではないかと考えております。

研修会のまとめとして、津下先生のご講演資料「産業保健スタッフの皆さんへ」を掲載させていただきます。

2021年度は、新たに産業歯科部会の鈴木史香先生に企画委員に加わって頂き、皆さまのスキルアップに繋がる研修会を企画・開催したいと思いますので、引き続きご指導・ご協力を頂きますよう、よろしくお願いいたします。

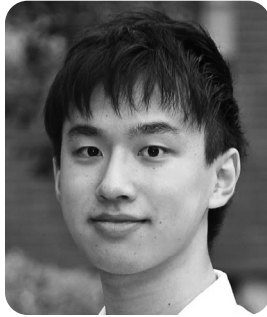
末筆になりましたが、今回で委員を退任されます医療法人 Respect 青山歯科室の青山先生に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

産業保健スタッフの皆さんへ

- ・社員に対する健康づくり（とくにポピュレーション・アプローチ）について、「地域・職域連携推進事業」を活用してみるのも一つの方法です。
- ・自治体のイベントや健康づくり事業への協力も期待しています。まずはチラシの配布、ノベルティ協力なども歓迎されます。
- ・健康経営を目指している企業では、地域が提供する健康経営制度・情報を活用してみてもいかがでしょうか。
- ・健康リテラシー向上のための講演会などの協力が得られる場合があります。
- ・社員が地域資源に親しむことで、退職後も継続して健康づくりを行うことが可能になります。
- ・地域住民への健康づくりの機会を開放することで、企業イメージの向上にもつながります。

2021年度東海地方会産業医部会懇話会に参加して (web 併用開催)

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 産業医 藤原秀起



2021年4月24日(土)にウイング愛知にて開催されました2021年度東海地方会産業医部会懇話会(web併用開催)に参加させていただきましたので、ご報告させていただきます。

まず第一部では、西賢一郎先生(ジャトコ株式会社 統括産業医)より「現場の活動を社会に還元-事務所・地域のレベルアップからダイバーシティに-」というテーマで講演をしていただきました。西先生のご経験やご活動を踏まえながら、教育活動や地域における産業保健活動の推進、ひいては学会活動についてのお話を伺い、様々な経験を通しての心得を学ぶ貴重な機会となりました。中でも、「相手にする対象が異なるだけで医療を行う姿勢は変わらない」という姿勢には感銘を受けました。また「産業医自らがイキイキしていないと働く人はイキイキできない」という考え方は西先生を体現されているような表現で、参加されている先生方との距離感も非常に近く、西先生の人望の厚さを感じられました。

第2部では3名の先生方から活動報告をしていただきました。①安田佑里那先生(三菱ケミカル株式会社四日市事業所)より「弊事業所における産業医活動報告」というテーマで、緊急事態宣言下での取り組みとして「つながりプロジェクト」のご紹介を頂きました。テレワークで社員が抱える不安やテレワーク下での社

員の工夫を社員へのアンケートや遠隔支援を用いて発信することで、不安の解消に努められていました。未曾有の事態の中で機転を利かせた活動で、非常に興味深く拝聴させていただきました。②寺澤哲郎先生(株式会社アドヴィックス 産業医)より「銀行業の労働衛生管理」というテーマで、ドラマ「半沢直樹」の例も交えつつ、銀行業の特徴や労働衛生管理体制をご紹介いただきました。約750箇所ある分散型事業所での対応や数年単位での頻繁に生じる社員の異動とそれに伴うメンタル対策は会社規模拡大に伴い複雑化するもので、多様化する企業構造への対応方法を学ばせていただきました。③阪田研一郎先生(東ソー株式会社四日市事業所 専属産業医)より「石油化学事業所専属産業医の職務」というテーマで喫煙対策や、新型コロナウイルス感染症対策についてご紹介いただきました。スモークダッシュの効果や屋内の喚起方法についての紹介は印象に残るもので、分煙能力や換気量を具体的な数値や図を用いて伝えることは衛生活動にとっても有用だと考えられました。

私自身、2021年度より日本産業衛生学会に入会させていただき、現在東海旅客鉄道株式会社にて産業医として勤務しておりますが、なかなかコロナ禍で情報収集も難しい現状が続いております。今回の東海地方会産業医部会懇話会では業種に囚われず広く産業保健活動に様々な形があることを学ばせていただきました。これから少しでも得た情報・経験を現場で生かしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。



特 集 記 事

第31回日本産業衛生学会全国協議会開催に向けて

第31回日本産業衛生学会全国協議会 企画運営委員長
三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野教授 医学部附属病院疫学センター長

笹島 茂



第31回日本産業衛生学会全国協議会を開催するにあたり、皆様に心からのご挨拶を申し上げますとともに、今回の学会の内容と開催地となる三重県についてご紹介します。

本学会のメインテーマは『経済社会と健康：ポストコロナの産業衛生を考える』です。わが国経済の低迷と人口構造の高齢化が進む中で、突然のようにして新型コロナウイルスが出現しました。経済社会のあり方は大きく変化し、産業衛生学が目的とする働き方の変革の意味と意義が問われています。作業環境の在り様は変わり、産業衛生の内容も方法も大きな変革期を迎えようとしています。人類の歴史を振り返ってみると、中世ペストのパンデミック後にルネッサンスが興隆しています。今回の学会は、産業衛生学自身が、これまでの歴史を踏まえつつ、新しい世界情勢の中で自らを変革する意志を明らかにし、その目的と方法論について隣接する諸科学との対話の中から新しい変革の方向性を探る機会にしたいと考えております。

プログラムの一部を紹介します。基調講演およびメインシンポジウムの中で、新型コロナウイルスの出現による産業衛生の変化を、ワクチンの免疫学、疫学、臨床、換気技術等の視点を交えて呈示し、加えて、経済社会における健康に係わる政策的課題の検討を試みます。一方、ポストコロナの働き方の変化について、テレワークや多拠点生活の将来像やストレスの視点を加えて課題の整理を試みます。また、新しい方法論として出現した下水疫学の紹介なども予定しています。今回の全国協議会は、ポストコロナに焦点を当てますが、隣接する課題である、高齢労働者のフレイル予防にも光をあてます。さらに、産業衛生の課題について、各部会や研究会による多彩なシンポジウムや講演会が予定されています。

さて、本学会の開催地となる三重県は東西文化の地政学的分岐点にあるといわれ、文化の融合と発信に見るべきものが数多くあります。近世にあって古事記神代の心を近代に投影した本居宣長、文学において俳諧を芸術に昇華せしめた松尾芭蕉、現代にあって四日市公害の疫学と克服に画期的な事績を残した故吉田克己名誉教授(三重大学)が光彩を放っています。そして、変動する歴史の中で不動点のように変わらぬ伊勢の神宮は、社会変動のなかで存在感を増しています。ポストコロナの産業衛生の新しい原点を考える場所と時間となることを希望します。

末尾になりましたが、本学会が皆様方にとって実り多く有意義なものになることを祈念しております。

**第31回日本産業衛生学会
全国協議会**

**経済社会と健康：
ポストコロナの産業衛生を考える**

現地会場開催およびライブ配信開催 2021年12月3日(金)～5日(日)

オンデマンド配信開催 2021年12月3日(金)～19日(日)
新型コロナウイルス感染症の流行状況により変更の可能性がございます。

会場 三重県総合文化センター (三重県津市)

企画運営委員長 笹島 茂 (三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野教授)

運営実行委員長 酒井 秀精 (シャープディスプレイテクノロジー(株)三重事業所)

演題募集期間 2021年6月21日(月)～7月30日(金)

<http://procomu.jp/sanei-zenkoku2021/>

株式会社プロコムインターナショナル 〒135-0063 東京都江東区有明三丁目6番地11 TTFビル東館9階
TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820 E-mail: sanei-zenkoku31@procomu.jp

リレーエッセイ

コロナ禍にこそ考えたい「座ること」と「人間工学」

名古屋市立大学大学院医学研究科環境労働衛生学 准教授 榎原 毅



東海地方会ニュース第 95 号 (2021 年 1 月号) に掲載されている第一回リレーエッセイでは、赤津順一先生より「新型コロナへの対応から学ぶこと」と題してテレワークの課題に言及されています。世界的な新型コロナ

の流行は新しい労働・生活様式を普及させました。テレワークは、介護・育児の両立あるいは従業員が満足に働ける柔軟な福利厚生策として IT 企業を中心に普及していました。しかし、今では感染症対策として位置付けが色濃くなっています。つまり、個人の裁量で柔軟に選択できた在宅勤務から、感染対策として強いられる、制約の多い在宅勤務様式へとシフトしたことにより、様々な産業保健上の懸念が昨年より国際誌を賑わしています。本エッセイではそれらすべてを網羅するのは紙面上難しいので、「座ること」に焦点を当てたいと思います。

私たちはどのくらい座っているの？

新型コロナ以前の報告では、座位時間は米国で 1 日平均 10.6 時間、日本のオフィスワーカーでは 1 日平均 11.2 時間 (勤務時間中：6.4 時間、勤務時間以外：4.8 時間) との報告があります。2020 年のコロナ禍によるロックダウン時に米国で調査された研究では、大学生の座位時間は 1 週間あたり 8 時間ほど増加していたとの報告はありますが、一般労働者集団でどのくらい座位時間が増加しているのかという信頼性の高い調査結果はまだ見当たりません。在宅勤務が普及したことにより、私たちは約 11 時間座っているという状況は、さらに増えていると考えられます。

座ることの健康影響

最新の研究報告によれば、1 日あたりの座位時間が合計 9.5 時間未満の群に比べ、12 時間座っている群では 2.9 倍も死亡率が高まります。そのほか、心血管疾患、がん、2 型糖尿病に関しても多くの研究で座位時間の健康影響が示されています。また、スポーツなど習慣的なエクササイズをしても座位時間による健康影響はリセットされないことも様々な研究で示唆されて

います。運動習慣の獲得は様々な健康にポジティブに作用しますので重要ですが、それと併せて座位時間をいかに減らすか、という両輪で考えることが中長期的な健康影響の観点からは大事になります。

在宅勤務で座位時間を短くする人間工学ヒント

コロナ禍における在宅事情を勘案した人間工学対策として、国際人間工学連合から電子出版されている、通称「7つの人間工学ヒント集 (図)」が注目を集めています。このヒント集がユニークなのは、お金をかけずに簡単に実践できるヒントを示し、ちょっとした工夫や良い実践の”習慣”の獲得に特化している点です。例えば、「座った姿勢と立った姿勢を交互にとりましょう」という習慣を自然に身に付けてもらうために、なぜそのようなことが必要なのか、どのような健康リスクの軽減に役立つのか、習慣化するためにはどのような配慮をすればよいか、というポイントが「1 ヒント 1 枚」にイラスト付で纏められています。このヒント集は、誰でも無料で自由に配付・使用できるコモンズライセンス (CC-BY) が付与されていますので、昨年 5 月に公表して以降、TV や新聞、雑誌など多くのメディアで取り上げられ、現在英語・日本語版を含め 9 カ国語に翻訳され、世界中で利用・実践されています。是非皆様も一度ご高覧いただき、在宅における産業保健活動の支援策の一つとして利活用ください。

今回は、名古屋大学・西谷直子先生にバトンを渡したいと思います。西谷先生、よろしくお願いたします！



図 一般社団法人日本人間工学学会『タブレット・スマートフォンなどを用いて在宅ワーク/在宅学習を行う際に実践したい7つの人間工学ヒント (翻訳版)』日本人間工学学会、2020 より
<https://www.ergonomics.jp/usertype/company/11624.html>

トピックス

新型コロナウイルス情報源調査のご報告

ヤマハ株式会社 産業医
東海地方会 学術研究推進委員会 山本 誠



今回、東海地方会の皆様に新型コロナウイルス情報源調査を実施させていただきましたのでご報告させていただきます。この調査は2020年11月の東海地方会学会で行われた調査研究の企画提案で発表し、ご意見を

いただきながら実施致しました。

本調査の目的は、新型コロナウイルス感染症に関して、会員が情報収集を行う際の情報源やその情報を知るきっかけの現状を把握することです。対象は東海地方会会員912名のうち、メールアドレスが登録されている889名に対して、Webによる自記式アンケートを実施しました。調査期間は2020年11月25日から12月4日までで、164名(回収率18.4%)から回答いただきました。

質問事項は、年齢性別職種などの基本情報に加えて、「疾患としての情報収集」「自社の産業保健対応」「情報源を知るきっかけ」のそれぞれについて、『最も使用したもの』を一つ回答し、『少しでも使用したもの』を複数回答いただきました。

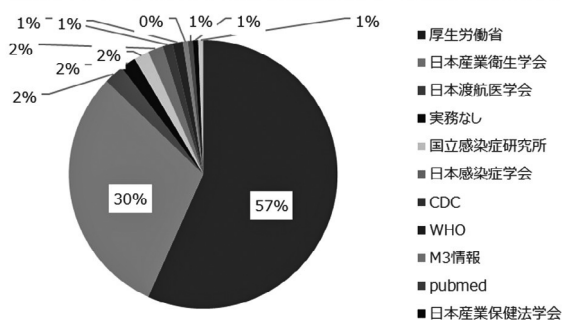
結果ですが、疾患としての情報源で最も使用したも

のは厚生労働省で58%、ついで日本産業衛生学会が15%でした。さらに最も自社の産業保健活動に参考にした情報源は、図1が示すとおり、厚生労働省が57%、次いで日本産業衛生学会が30%でした。また複数回答でも日本産業衛生学会は厚生労働省に次いで参考にした会員が多い結果でした。これは学会の職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイドや新型コロナウイルス感染症対策用換気シミュレータなどが現場のニーズに即したものであったことを示す結果と考えられました。

また複数回答での情報源を知るきっかけとしては、図2が示すとおり、メーリングリストの合計が41%、ネットニュースや医療系ホームページが27%、テレビや新聞が15%と多い一方、FacebookなどのSNSや個人メールの合計が17%と個別の情報交換においても情報源を得るきっかけを得ていることが分かりました。これは、従来のメーリングリスト等の一方向の情報発信に加えて、専門職同士での双方向の情報共有がある程度進んでいる可能性が示唆されました。

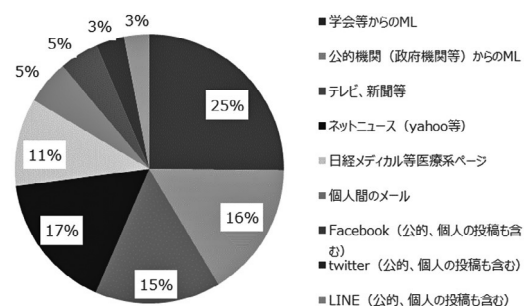
このように初めての試みではありましたが、短期間にも関わらず多くの方々から回答いただき、迅速な報告が可能となりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

図1 最も自社の産業保健活動に参考にした情報源



厚生労働省に次いで30%の回答者が日本産業衛生学会の情報を、最も自社の産業保健活動の参考にしていた

図2 情報源を知るきっかけ 複数回答



ML41%, ネットニュース28%, SNSと個人メール16%

新型コロナウイルス対策 ～海外工場の対応について～

ブラザー工業株式会社 健康管理センター 産業医 川角美佳



2020年1月6日に厚生労働省から「中国武漢で原因不明の肺炎が発生」とのニュースがあり、その後、1月14日にWHOが「新型コロナウイルスを確認」、1月16日に「日本国内で初めて感染確認」というニュー

スがありました。病原性がわからない中、世界規模であつという間に広がりを見せ、新興感染症が拡大するスピードの速さにとても恐怖感を持ったことを記憶しています。弊社でも2020年1月中旬頃から対応を開始し、1月末に新型コロナ事務局、2月初めには新型コロナウイルス対策本部が設置され、産業医もメンバーとして様々な対策を行ってきました。

今回は海外工場の対応についてご紹介しようと思います。弊社の場合、グループ会社の独自性を認めています。そのため、ブラザー工業の考え方を示しつつ、それぞれの会社の実情にあわせて実施内容を検討してくださいという考え方をしています。

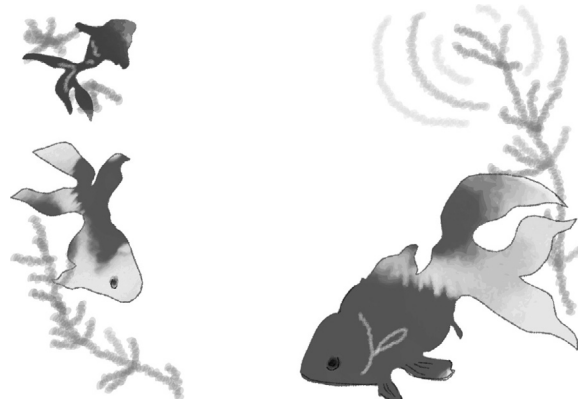
これは、海外工場に対しても同様です。しかし、それぞれの国において、そもそも衛生に対する考え方やCOVID-19の個人レベル感染予防行動の意識が日本と異なります。そのため、2020年5月に出向者が多い地域や感染拡大がある地域を中心に海外拠点ごとの衛生関係の担当者にヒアリングを実施しました。これは、海外工場の各拠点の状況を知り、各拠点の担当者と同つなぎをすることでその後も相談しやすい体制を作る

ことを目的としました。実際、このヒアリング後は、例えば、陽性者発生時に各国で一般的に行われている消毒方法について意見を求められることや、現地で健康診断を受ける方法について相談を受けるなど、具体的な内容の相談も増えました。

さらに、2020年6月には人事部海外担当者と一緒に各海外工場の対策状況を確認しました。この時は、各海外工場における感染症の拡大を防止する対策、衛生用品の備蓄品、感染者が出たときの対応方法について、チェックリストを作成し実施しました。この結果と海外工場がある地域の医療レベルや医療のひっ迫度をまとめたものは、新型コロナウイルス対策本部で報告しました。海外工場に対する弊社の支援について経営層を含めて再検討することができました。

その他、海外赴任者のメンタルヘルス対策は2020年4月から様々な方法で継続的に実施しておりますが、経営層から海外赴任者の疲労の蓄積やストレスの蓄積を心配する声が上がっております。このニーズをもとに、今まで実施できていなかった海外駐在員のメンタルヘルスカラを見直しました。年1回だったメンタルチェックを年2回に増やすことや、新規海外赴任者のメンタルヘルスカラを半年間実施する等、海外赴任者のメンタルヘルス強化をすることができました。

ピンチはチャンス。COVID-19感染症の収束までにはまだ時間がかかりそうですが、これを機に今まで課題と感じながらもやられていなかったことにも力を入れて産業医活動をしていきたいと思っております。



受賞記事

「功労賞」のご報告

名古屋大学名誉教授・中部大学客員教授 那須民江



この度日本産業衛生学会から功労賞をいただきました。定年制や功労賞という言葉は私の中に微塵もなく、ただ「研究は楽しい」という、イソップ童話の「アリとキリギリス」に例えれば、キリギリスに相当する考え方だけで

この分野に入り込んできたのが、つい最近のように思えます。信州大学で内科医と一緒に有機溶剤による職業病を追っかけて東奔西走した日々、その職業病の研究を深めていくことに魅了されて実験室で悪戦苦闘した日々、名大にきてから約 20 年間トリクロロエチレンによる新しい職業病 hypersensitivity syndrome の日中共同研究で、スケールの違う中国の深圳まで足を延ばして調査し、モデル動物も確立しながら研究を深めた日数と移動距離を考えると、やはり年月の流れは大きく、気が付けば「功労賞」をいただけるような年

齢に達していたというのが正直なところでは、好きな研究ばかりやってきたので「賞に値する仕事をやってきたか？」と問われれば、胸を張っての返事に少し戸惑いを覚えます。しかし、「研究とは藪の中に道をつくることだ」と説くベンゼン環を発見した「ケクレ」の言葉を借りれば、hypersensitivity syndrome の研究に関しては一筋の「道」を開拓できた自負はあります。トンネルを掘り上げ、一筋の光が見えてきた時のような歓喜を覚えました。しかし産業衛生学としてはまだ道半ばで、生物学的許容値や許容濃度の見直しなどの仕事は残っています、名大時代からの共同研究者上島・伊藤・内藤の各先生および東海地方会の皆様の支えが何より大きかったと感じております。また、斉藤政彦先生と城憲秀先生には、「研究の原点である松本市における日本産業衛生学会学術総会で受賞を」、という時期を得た配慮もいただき、喜びは筆舌に尽くしがたいものがあります。キリギリスの一生で終わらないように、産業衛生学として最後の仕事までやり尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

産業衛生技術部会奨励賞 受賞報告

名古屋市立大学 大学院医学研究科 環境労働衛生学 准教授 伊藤由起



この度、2021 年度産業衛生技術部会奨励賞を受賞させていただきました。ご推薦いただいた東海地方会産業衛生技術部会部会長の榊原洋子先生、これまでご指導いただいた上島通浩先生、那須民江先生をはじめ多くの先生方、更にお世話になった東海地方会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

私は環境中の化学物質の毒性評価・リスク評価の研究を大学院時代からずっと続けております。2003 年度に入会しましたので、早 20 年弱 (!) も日本産業衛生学会において勉強させていただいております。その間今日まで、中国トリクロロエチレン使用職場での全身性皮膚肝障害の原因究明研究、殺虫剤散布作業における健康影響調査といった職域での調査・研究に携わってきました。一方、産業衛生実務というのは殆ど経

験がなく、労働現場も大学内の職場巡視に何度か従事した程度しか知りません。また、産業衛生を担う後進の育成という点においても、教室には研究のみならず労働安全衛生現場にも造詣の深い上島教授、榊原准教授、佐藤元助教がいらっしゃいましたので、私は環境衛生学や食品衛生学を主に担当してきました。

このような状況ですので、産業衛生技術部会の奨励賞候補者には適さないのではないかと思う気持ちもありましたが、本部代議員かつ東海地方会理事や東海地方会産業衛生技術部会の副部会長を現在拝命していること、そして許容濃度委員会や編集委員会の末席に名前を連ねさせていただいていることを過分に評価いただいたものと受け止めております。したがって、まだまだ不勉強でございます。本件の受賞連絡とそれ程間髪を入れず本部部会幹事就任の話があり、産業衛生技術部会に実質的にもっと貢献しなさいという条件がついた受賞だと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

会員の声

新理事のご挨拶

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 産業医 金 一成



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事に新たに拝命いただきましたトヨタ自動車の金一成と申します。ご挨拶の機会いただき感謝申し上げます。私は1992年トヨタ記念病院で臨床研修後、1994年に同社安全

衛生部に配属、以来社内の各工場を転々とし2019年から本社担当産業医として勤務しております。本学会には1993年に入会、現在指導医も務めさせていただいております。

突然ですが、コロナは否応なく社会・労働態様の変化を加速させてしまいました。非接触型の生活様式が浸透して我々の保健教育、メンタルヘルス対応や健康相談も変わっていくものと思われま。健康支援は医療費負担軽減目的もあり益々予防色濃くなり、職域で特定保健指導やコラボヘルスが課されていますが、加えて労働市場の流動化が一気に進みそうな勢いから健

康支援の網の目が綻ばないために何かできないか、特に孤立防止や低栄養予防に対して行動変容を促し予防効果を上げる職域でも可能な方策を考えていきたいと思っています。そのために我々の業務へICTやAIの技術導入も避けられない課題と思いますが、我々の役割として自らの知見・経験をコンセプトやエッセンスとして設計に生きるように専門家・技術者とのコミュニケーションを活発化させて、早期に利活用・“カイゼン”して、よりよいツールにする事が何より求められていると思います。行動経済学やゲーミフィケーションなどの要素を入れて、個別最適な教育内容や保健スタッフ介入、集団でのグループダイナミクスを活かす機会を“ジャストインタイム”に提供可能にする推奨システムの開発と、総括評価としてPopulation Health Managementの実現も目標の内、と思います。微力ながらそういった動きを少しでも促進すべくお手伝いさせていただきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

東海地方会理事就任に際して

パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社メカトロニクス事業部伊勢 健康管理室 山口 威俊



この度、日本産業衛生学会東海地方会理事を拝命いたしました産業医をしております山口威俊です。理事就任は、分不相応で身の引き締まる思いではありませんが、皆様方と本学会地方会の運営に携わることができま

ことを心からうれしく思います。

大学を卒業後、出身地である福島県にて企業外労働衛生機関に勤務し、15年ほど前から東海地区で産業保健に従事しております。福島で勤務していた頃には福島第一原発にも健康診断でお邪魔しておりました。その原発が10年前に発生いたしました東日本大震災にて水素爆発を起こした映像は脳裏から離れることは今もありません。実家も直接の被災はなかったものの、現地の親、兄弟の安否を確認するのに四苦八苦し、家族の脱出計画を立てていた記憶が昨日のように思い出されます。

さて、昨年からは産業保健は新型コロナウイルス感染症の対応一色といっても過言ではありません。学会や研究会が中止やリモート開催になったことはもちろんのこと、会社や職場での感染やクラスターの予防策をはじめ、勤務形態の変化に伴う健康管理のあり方など検討しなければならないことは多岐にわたっています。科学的エビデンスが乏しい中、会社や職場から様々な相談や判断を求められ、ある意味では産業医冥利に尽きる1年でもあり、一方で感染症の数理モデルなど新たに勉強しなければならないテーマもあることにも気づかされた1年でもありました。

今後、本学会では新興感染症における様々なエビデンスが示され、対応方法が体系的に構築されることになると思います。そのような流れの中で微力ではありますが一助になれるように頑張りたいです。至らない点も多々あるかと思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

新理事のご挨拶

名古屋大学 大学院医学系研究科 総合保健学専攻 内山 靖
 予防・リハビリテーション科学 創生理学療法学 教授



この度、執筆の機会をいただきましたので一言ご挨拶申し上げます。

正式には国立大学法人東海国立大学機構として随分と長い表記ですが、端的には理学療法学の研究教育に携わっています。

臨床領域では脳卒中や神経疾患を患った皆様の理学療法・リハビリテーションを実践し、姿勢・バランスの制御と運動学習を専門としています。また、私自身は大学院では理工学研究科で学んだことからロボティクスにも関心が高く、名古屋大学未来社会創造機構では工学や情報系の先生方とともに企業の皆様と共同研究・機器開発を進めています。

産業衛生との出会いは、大学院時代に人間工学や衛生学を専門とする先生の指導を受けたことに始まりますが、転倒ならびに腰痛の予防や効率的で安全な労働環境の調整などに理学療法の視点が生かされると考えています。リハビリテーションは運動機能の回復にとど

まらず、その人らしく社会の中で生活していく参加と活動を支援することであり、労作関連性筋骨格系障害に加えて、脳卒中やがんを患った勤労者の両立支援にも寄与できる点があると感じています。

実際に、諸外国では企業コンサルタントを生業とする理学療法士も少なくなく、遠隔技術を活用した勤労者の腰痛・労作管理や再発予防にもかかわっているようです。私たちの研究室でも、企業での健診で痛みやバランスを含めた体力測定や勤労者からの相談をお手伝いする機会がありました。

医療・福祉の中では多職種連携の重要性が浸透しており、産業衛生の分野においても労働生産性の向上や健康寿命の延伸などへ寄与できることを望んでおります。

これを機会に皆様方と一層連携してこの領域に少しでもお役に立てればと考えておりますので、是非ともお気軽にお声がけいただければ幸いに存じます。

末筆ながら、東海地方会の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念しております。

事務局から

地方会理事会

2020年度第3回理事会

日時：2021年1月23日(土) 10:00~12:00
Zoom会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- II. 協議事項
 - 1) 次期地方会体制(案)について
 - 2) 事務局の運営方法について
 - 3) 過去の記録の収集について
 - 4) 選挙について
 - 5) 次回の理事会の日程について
 - 6) その他
- III. 報告事項
 - 1) 第31回日本産業衛生学会全国協議会準備状況
 - 2) 2020年度地方会学会開催報告
 - 3) 2021年度地方会学会準備報告
 - 4) 第33回産業保健スタッフのための研修会準備状況
 - 5) 本部理事会報告
 - 6) 地方会事務局報告
 - 7) 地方会活動方針検討委員会
 - 8) 学術推進委員会
 - 9) 編集委員会
 - 10) 研修会企画委員会
 - 11) 地方会学会企画運営委員会
 - 12) 表彰制度推薦委員会
 - 13) 部会報告
 - 14) 職場ストレス研究会報告
 - 15) 各県の活動報告
 - 16) その他報告事項
 - 17) 関連学会研究会開催情報
 - 18) その他

2021年度第1回東海地方会理事会

日時：2021年6月26日(土) 10:00~12:00
Zoom会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- II. 協議事項
 - 1) 2021年度総会について
 - 2) 第31回日本産業衛生学会全国協議会開催方法
 - 3) 2022年度地方会学会について
 - 4) 第34回産業保健スタッフのための研修会
 - 5) 新型コロナウイルスの職場でのワクチン接種について
 - 6) 東海地方会Zoomアカウント取得について
 - 7) 次回の理事会の日程について
 - 8) その他
- III. 報告事項
 - 1) 2021・2022年度東海地方会執行体制についての確認
 - 2) 2021年度地方会学会準備報告
 - 3) 第33回産業保健スタッフのための研修会報告
 - 4) 本部理事会報告
 - 5) 過去の記録の収集と維持管理について
 - 6) 地方会事務局報告
 - 7) 地方会活動方針検討委員会
 - 8) 学術推進委員会
 - 9) 編集委員会
 - 10) 研修会企画委員会
 - 11) 表彰制度推薦委員会
 - 12) 部会報告
 - 13) 職場ストレス研究会報告
 - 14) 各県の活動報告
 - 15) その他報告事項
 - 16) 関連学会研究会開催情報
 - 17) その他

会員状況

2020年10月1日～2021年5月31日の推移
(2021年5月31日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	29	9	5	3	46
転入会員	3	1	0	0	4
地方会内転入	1	0	2	0	3
退会会員	-30	-7	-7	-1	-45
転出会員	-5	-2	0	0	-7
地方会内転出	-2	-1	0	0	-3
増減	-4	0	0	2	-2
本部正会員	523(4)	225(1)	105	45(1)	898(6)

※()は学生会員を表す

これからの行事予定

第1回日本産業衛生学会産業看護部会学術集会

日時：2021年9月4日(土)

テーマ：産業保健看護の未来を創る

ープロフェッショナルリズムの探求ー

2021年度日本産業衛生学会東海地方会

日時：2021年10月30日(土)

場所：オンライン開催

特別企画：産業保健と感染対策

～エビデンスと現場実践の向上～

産業看護部会との共同企画：

アフターコロナに向けたストレスチェック

集団アプローチの実践

日本産業看護学会 第10回学術集会

日時：2021年11月6日(土)～7日(日)

場所：和洋女子大学 国府台キャンパス

テーマ：日本の元気を支える産業看護の力

～すべての働く人々・組織に

産業看護サービスを～

第31回日本産業衛生学会全国協議会

日時：2021年12月3日(金)～5日(日)

会場：三重県総合文化センター

テーマ：経済社会と健康

：ポストコロナの産業衛生を考える

第80回日本公衆衛生学会総会

日時：2021年12月21日(火)～23日(木)

会場：京王プラザホテル 等

テーマ：社会の組織的な取り組みと協働で人々の

健康をまもる

2021年度東海産業技術部会特別企画

日時：2022年1月22日(土)

場所：オンライン開催

テーマ：労働衛生の将来の方向性を考える

第34回産業保健スタッフのための研修会

日時：2022年2月5日(土)

テーマ：新型コロナウイルスに関する労務問題QAの

エッセンス、職場のメンタルヘルスと法

第29回日本産業ストレス学会

日時：2022年3月25日(金)～26日(土)

会場：ウインクあいち

テーマ：チームで進める産業ストレス対策

編集後記

2020年初頭からのCOVID-19の感染拡大に伴い、私共の生活は大きく変化しました。1年を経過し看護大学でも講義の遠隔実施は当然、臨地実習もオンラインで実習先と繋がるなど工夫を凝らし展開しています。企業の看護職をはじめ、皆様にはお忙しい中にも関わらず「後輩育成」「社会貢献」と温かいお言葉を頂き、教員として感謝の毎日です。

Society5.0が進む中、COVID-19は一気に社会の変化を進めたといわれています。オンラインによる産業保健も今後発展していくと考えます。変化へ柔軟に対応しながらも産業保健の理念を忘れずに日々進化・深化していきたいと考えています。

四日市看護医療大学 後藤 由紀

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子(キヤノン)

副編集委員長：西谷 直子(名古屋大学)

編集委員：赤津 順一(日本予防医学協会)

榎原 毅(名古屋市立大学)

河南 文子(メタウォーター)

後藤 由紀(四日市看護医療大学)

近藤 祥(聖隷健康診断センター)

榊原 洋子(愛知教育大学)

菅沼要一郎(浜松ホトニクス)

城 憲秀(中部大学)

山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX: 06-4964-8804 E-mail: jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口601-1
有限会社トータルマップ
TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718